

# 記録 令和4年度 南池袋二三四町会 防災訓練

日時:2022.6.26 10:00-12:00 (準備 9:00-10:00)

場所:南池袋小学校 主催:南池袋二三四町会

チラシの原型は、豊島区役所危機管理課がご提供くださいました。町内会の掲示板 11 か所、区の掲示板 4 か所、大型マンション 6 か所の管理組合、町会内で最大個数の高層マンション全戸(約 400)、南池袋小

全児童約 600 名、近隣 10 町会長、近隣の大型マンション 5 棟の管理組合、関連組織に配布しました。コピーは、豊島区役所区民生活推進課でいただきました。

## 防災訓練のお知らせ

南池袋二三四町会  
会長 磯貝 徹二  
防災部長 北村 弥生



地震による被害を最小限にするためには、日ごろから訓練や体験を重ね地震に備えておくことが大切です。防災行動力を向上のため下記の日程で実施します。町会非会員の参加も歓迎します。

非会員で参加ご希望の方は、できれば、事前にご連絡ください(bousaiminaike234@gmail.com)。

**実施日 令和4年6月26日(日) 雨天決行**

**時間 午前10時00分～12時00分まで(受付 9:30～)**

・門は東通り側と東京音大側の両方を開けます

・東通り側からはエレベータが使えます

**会場 南池袋小学校 体育館**

(使い捨て靴カバーを配布しますので、上履きは不要です)

**訓練内容 ☆ 救出救助訓練**

- \* 階段からの救出方法(動画・写真)
- \* 布担架・おんぶひも・車いす搬送
- \* 階段避難について意見交換

### 感染対策

- \* マスクを着用して訓練に参加し、校内に入る際アルコール消毒と検温を実施します。
- \* 使用した資器材は、その都度アルコール消毒を実施しゴム手袋・軍手を着用します。
- \* 訓練実施中は相互に間隔を取り実施します。

お土産: お茶(ペットボトル)、携帯トイレ 5 回分

例年とのプログラムの違いが判らなかつたため、消火器操作訓練を期待して参加された町会員もいらしたそうです。今後、新規プログラムの場合は、チラシのデザインやタイトル(イベント名)などを工夫して、区別がつくようにしたいと思います。

受付名簿記入者 95 名(男 34 名、女 53 名、不明 8 名)で、10 歳代 2 名、20 歳代 3 名、30 歳代 0 名、40 歳代 7 名、50 歳代 12 名、60 歳代 11 名、70 歳代 27 名、80 歳代 12 名、90 歳代 4 名、不明 17 名でした。町会員 69 名(戸建て 36 名、マンション 33 名)、豊島区内 7 名、豊島区外 3 名、豊島区に通勤または通学 14 名、不

明 2 名でした。



図2 南池袋小学校 入口




図3 体育館(左の建物は門の外にある東京音楽大学、裏門はこちらにある)



図4 会場となった体育館:参加者合計約 100 名、映写機・マイクは学校から借用

## 防災訓練:階段プロジェクト 災害時に移動困難者をどう運ぶか?

1. 挨拶 町会長(5分)
2. 参加者紹介・目的と背景(20分)
3. 階段プロジェクト動画視聴 (10分)
4. 講評・布担架実演(10分)
5. 搬送方法の実演:消防署、消防団 (20分)
6. 情報提供・意見交換 (15分)
7. 閉会 副会長(5分)



<https://youtu.be/tFItso1fc>

南池袋二三四町会  
2022.6.26

本資料はご家族・関係者内での供覧は歓迎しますが、ネットでの転載はご遠慮ください。著作権の処理などが不十分なためです。後日、町会HPから、手紙を添って公開します。

1

図5 タイトル



図6 司会者

## 連絡事項

1. トイレ(会場の校庭側、多目的トイレは校舎地下1階、1階)
2. エレベータ
3. お土産(ごみ袋、携帯トイレ、ペットボトル)
4. 撮影(いやな人はマークを付けますので、お申し出ください)
5. 遅くとも11:50には終了します。元気な方は椅子片付けお手伝いを、お願いします。
6. アンケートはお帰りの際に出口にご提出ください、靴カバーはお持ち帰りください(プログラムとしてのゴミを減らしてください) 終了後のお問合せ先 [bousaiminaike234@gmail.com](mailto:bousaiminaike234@gmail.com)
7. 万事、積極的にご参加ください(災害をイメージして)。

2022©Yayoi Kitamura

2

図7 連絡事項

### 1. 開会

(司会)10 時になりましたので、開会させていただきます。まず、本日の連絡事項をお伝えします(図 7)。

1. トイレは、会場の校庭側にあります。多目的トイレは、入り口を出て校舎の地下 1 階と 1 階にあります。
2. 校舎にはエレベータがありますので、東通り方面にお帰りの人で、階段が苦手な場合はお使いください。
3. 今日のお土産として、区役所からごみ袋を提供いただいています。数に限りがありますので、町会員を優

先に配布させていただきます。携帯トイレは、100 個用意していますので、皆様にお配りできます。今、お持ちでない方は、お帰りに、お名前とご住所をご記入ください。後日、おとどけいたします。

ペットボトルは、すべての参加者にお持ち帰りいただけます。今、追加が届きましたので、お持ちでない方は、お手を挙げてください。お持ちいたします。

4. 今日は、新しい試みなので、撮影をさせていただきます。映るのが嫌な人は、お申し出ください。係が、肩にマークを張らせていただき、映ってしまった場合でも使用しないようにいたします。

5. 片付けを含めて、この会場を 12 時まででないといけないので、遅くとも 11:50 には終了します。早く進行したら、もっと早く閉会にします。

6. 椅子の上に置いたアンケートは、お帰りの際に、出口にご提出ください。靴カバーは、お持ち帰りください。プログラムとしてのゴミをなくしたいと思います。そのほか、ご意見・ご質問などありましたら、いつでも、お伝えください。メールアドレスを書きました。

7. 最後に、今日は、災害時を想定して、みんなで協力しあって進行したいと思います。災害時には、誰も、お客様にならないで、できることを少しずつしていただく。でも、決して無理しない、ということを実感するきっかけになれば、と思います。よろしくをお願いします。

では、南池袋二三四町会会長から、ご挨拶をさせていただきます。会長、よろしくをお願いします。


## 2. 町会長 挨拶(図8)

**磯貝徹二 町会長からご挨拶**

1. 経緯:避難行動要支援者名簿

2. どんな時に、何が必要か?  
自助・共助で行う避難

3. 素人による災害時の支援活動  
0からのスタート



・ 2022.3.31 目白警察署にて  
左から、警察署長、磯貝会長、島田防犯部長。  
「最近発生した強盗事件・3犯人の緊急逮捕に貢献したことから感謝状を授与された。町会の防犯カメラの映像が活用されました。」

2022@Yayoi Kitamura 3

図8 町会が目白署から感謝状を授与された時の写真

(町会長)

### ① 経緯

昨年、豊島区から各町会に対して「災害時の避難行動要支援者名簿」が配られて、「町会で何が出来るか考えて欲しい」との要望を頂きました。現在当町会には「災害時に移動を支援すべき対象者が約70名おられ、アンケートの結果、その中で支援を希望される方は16名居られることがわかりました。本日はその個人別の計画を作る為の素材を考える訓練です。

### ② どんな時に、なんで必要か?

普段、移動が難しい人の搬送は消防署や救急車の方々、普段から訓練して居られるプロの方々現場の状況に応じて適切に対応してくれます。ですから、我々は殆ど、具体的な救出方法を目撃する機会も有りま



せんし、「我々には縁のない世界」だと考えて居りました。

ところが、大災害が発生した場合、当然の事ですが消防署・救急車は手が回りません。消防署の方に伺うと大災害発生時には「1週間たっても、通常の活動は難しい」との話でした。

「その様な場合、誰が支援活動をするのか?」。結局、近隣の方々、我々自身のコミュニティ力で支援する事になります。

### ③ 災害時の支援活動

現状は、先程申し上げました通り、主役となるべき我々には全く経験がありません。「その時には何とか出来るだろう」と安易に考えて居りましたが、消防署のプロの方から「素人では先ず難しい」と、甘さを厳しく指摘され驚きました。

大規模災害時には、我々素人だけで活動せざるを得ない訳ですが、実は「この様な場合の活動実績」は有りません、従って定石も有りませんし、データも無いのが実情です。ですからこのような場合に備え、「素人だけで出来る道具、その使い方・それに体力・技術の限界等を、先ずは、正しく知る」事から始める必要が有ります。

専門家の方々にご指導頂きながら、色々試行しながら適切な方法を探り、出来る事出来ない事を見定める事が今日の目的です。まさに「零からのスタート」です。宜しくお願い致します。

## 3. 階段プロジェクト

(司会)この後、訓練の進行は北村防災部長が行います。

### 今日の目標

- ・災害時の移動困難者(高齢者、障害者、災害による傷病者)の搬送方法を知る。「こうすればいい」は示せませんが、「準備しないと困る」「準備できることは、いろいろあるので、やってみよう」ことを伝えたい。

- ① 階段移動についての試行(階段プロジェクト)の紹介と動画視聴  
素人による試行について、消防署からの講評
- ② 水平移動についての実演(消防署、消防団)
- ③ 各自・近隣同士で何が出来るか/できないかについての意見交換



図9 今日の目標 3点

図10 防災部長

(防災部長)去年から防災部長をさせていただいています。高層マンションができた時に越してきまして7年で、地域のことは、皆様からは教えていただくことばかりです。よろしくお願いします。

昨年、定年退職したのですが、障害者の災害準備をテーマに研究していました。今、町会で、その実践活動をさせていただいています。今日は、災害時に、素人ができる移動困難者の搬送方法を知ることを目標とします(図9)。

「こうすればいい」という確実な方法があるわけではないので、今日は、「準備しないと困る」とか「準備できることはいろいろあるので、やってみよう」という気持ちをもっていただければ、ありがたいです。

①まず、大地震の後に、停電して、エレベータが使えなくなった時に、階段から降りられない人をどう降ろすかについて、先日、試行しましたので、その紹介を、動画を交えて行います。

消防職員は、専用の機材をもち、訓練をしています。町会の有志で行った試行を動画に撮り、動画を見ていただいて、消防署からプロのご意見をいただきます。

②次に、救援センターなどまで運ばなければいけない場合に、水平移動について、実演を交えて、消防署、消防団から、ご指導をいただきます。

③ 最後に、各自で、近所同士で何ができるか・できないかについて、意見交換したいと考えています。ぜひ、積極的に、ご参加ください。

### 参加者紹介

- ・豊島消防署目白出張所、豊島消防団第五分団
- ・南池袋小学校
- ・豊島区社会福祉協議会:03-6890-2950
  - 豊島ボランティアセンター(共生社会推進・事業開発課) 03-3984-9375
  - コミュニティソーシャルワーカー(区民ひろば高南第二) 03-6890-2950
- ・ふくろうの杜高齢者総合相談センター:03-5958-1208
- ・区民ひろば南池袋(補助救援センター)
- ・民生委員
- ・東京福祉大学(佐藤先生)、日本女子大学(葉袋みない先生)
- ・東京都防災士会
- ・武井里香、優美(記録用撮影・動画編集)、としまテレビ(放映: ) 5

図 11 参加者一覧

最初に、今日の参加者をご紹介させていただきます(図 11)。

今日は、豊島消防署目白出張所から 2 名がお越しくださいました。途中で、出張所長がいらっしゃいます。豊島消防団第五分団から分団長、町会地域内と近隣にお住いの団員 2 名の合計 3 名に、ご指導いただきます。ほかに、スライドに示したような方々(豊島区民社会福祉協議会、ふくろうの杜高齢者総合相談センター、区民ひろば南池袋、民生委員、東京福祉大学の教員と学生さん、日本防災士会東京支部)に、ご協力いただいています。実際に、災害の時に、関係する方たちにお声掛けしました。

スライドに記入が漏れましたが、この南池袋小学校を救援センターとして使う 11 町会の会長さんにもご案内をさせて頂き、4町会(東目白本、池袋西睦会、雑司ヶ谷一丁目町会、南池袋二三四町会)が参加しています。ちょうど同じ日時に防災訓練をしている町会が 3 つありますので、今後は、訓練の日程を調整したいと思っています。

今日は、記録用の撮影のほかに、としまテレビさんにも取材に来ていただきました。としまニュースで放映予定ですが、放映日はまだ決まっていないそうなので、決まりましたら町会の twitter でお知らせいたします。

次に、会場の紹介をさせていただきます(図 12)。今日は、校長先生、副校長先生もお越しくださいました。映写機材もお借りしました。この南池袋小学校の体育館は、豊島区の救援センターになっています。東京都は、避難所ではなく、救援センターといっています。

救援センターという名前の意味は、避難して住むための場所ではなく、物資や情報が集積される場所という意味です。避難して、ここで寝るには、収容数が足りないの、家の損傷が大きくて留まるのが危険な人、火事で家が燃えてしまった人は避難するけれど、それ以外の人は、基本は在宅避難してほしいということで

す。



図 12 南池袋小学校の教室配置図

南池袋小には、11 町会の地区の人が使用する予定です。ただ、救援センターの使用は町会員に限りません。豊島区の地域防災計画によると、避難が必要と予想される人の 65%しか収容できません。これは、大体、どこの自治体も同じ比率です。一般に、大規模地震の後は余震がたくさんあります。停電と断水が起こると、夜になると不安で、そろそろ避難所に移動してしまうのですが、そうすると、必要な人が入れなくなるので、「停電と断水の対策をして、家にとどまれる人はとどまっていたきたい」と言われています。在宅避難といえます。救援センターでも、初期にはエアコンが動くほどの電気はありませんし、お風呂に入れるほどの水もありません。

学校の中では、一般には、体育館を主に使いますが、被害がとても大きくて学校が休校になるような場合には、教室をどう使うか、絶対使えない場所はどこかを書き込んだ素案を考えたことがあります。平成 30 年に、区役所の取りまとめで、11 町会から代表が 5 人くらいずつ集まり、案を作るグループワークをしました。これは、考え方の実習をただけなので、この図を使うということではないと思います。使ってはいけない部屋や場所を確認し、どういう人に、どう部屋を割り当てるかを町会ごとに考えて、区役所が 11 町会の案をまとめたのが、この図です。その後、コロナも起こりましたので、コロナ対応も考えなければいけません。

小学校の門と校舎の鍵は、暗証番号で開けられるそうです。この番号を習う訓練は、令和 2 年度にコロナで中止になってしまい、町会では把握していません。近隣に住む区役所職員などが駆け付けることになっています。今年(令和 4 年)の 10 月の訓練で教えていただけのではないかと思います。避難全般についての質問は、今日は、お受けする時間はないので、アンケートの裏に書いていただければ、報告書に掲載するようにしたいと思います。



階段プロジェクトと称して、階段を降りることを、今回のテーマにした背景を、ご紹介します(図 13)。町会には、区役所から災害時避難行動要支援者名簿が届いています。2021年7月に新しい名簿が届き、町会長と防災部長が保管しています。前は2017年に届きました。

### 【これまでの経過】

## 災害時避難行動要支援者名簿登載者への調査

氏名	年齢	住所	要介護度または障害者手帳種別・等級 (要介護度3以上、障害者手帳所持)	電話番号 メールアドレス	家族数
----	----	----	--	-----------------	-----

①第一回名簿配布(H29):区役所から町会長・防災部長に提供(H27年ごろの情報)

②第二回配布(R3.7):区役所から町会長・防災部長に提供(2年前ごろの情報)

- ・70名(前回名簿登載者は2割)
- ・宛名不明8名、返信41名(要支援16名、支援不要12名、物故・施設入所13名)
- 返信なし21名
- ・「支援必要」と回答した者のほとんどが、説明会への参加、情報の地区委員・民生委員との共有に同意

@ エレベータが停止すると車いすです避難できない → どういう方法が可能か？

@ 災害時に家族がいない場合が心配 → 班単位の安否確認、マンションに班はない

2022@Yayoi Kitamura 7

図 13 災害時避難行動要支援者名簿に関するこれまでの経過

この名簿には、氏名、年齢、住所、要介護度または障害者手帳の種別と等級が書かれています。どういう人が名簿に載っているかというと、高齢者では要介護度3から5の人、障害者手帳をお持ちの人で、町会に情報を渡してほしくない人を除いた人です。二三四町会地区内で70名が載っていました。前回の名簿と突き合わせると、同じ人は2割程度で、入れ替わりが激しい名簿です。要介護度3以上という施設入所されたり、亡くなられたりする人が多いので自然なことと思います。

前回は、町会長さんは、「ほとんど、名簿登載者を知らない」というので、アンケート調査をしました。最低、電話番号と家族数、災害時に何が困るかを知りたい。また、地区委員さんは各地区の名簿登載者と面識があることを確認しました。今回の配布時には、区役所からも、町会役員には、名簿について情報提供してもよい、ということを言われています。

アンケートで、「支援が必要」と答えた方は、おおむね全員が、説明会への参加や、情報の地区員・民生委員との共有に賛同してくださいました。ただ、まだ、地区委員さんへの情報共有は、行っていません。

今回の調査では、宛先不明が8名、回答は41名から返信いただきました。41名中で「支援が要る」と答えた方は16名でした。「支援は不要」と回答した中には、車椅子を使っている人もいますので、「どんな支援が必要」で、町会は何ができるかは、まだはっきりできていません。また、返事がない方は、状態が悪いので返事をしない可能性もあるため、心配なのですが、まずは、この16名の方から、対策を検討することとしました。

と、いっても、町会としては「名簿登載者だけの安否確認をするのではなく、町会地区全体の安否確認の中で、名簿登載者を漏らさないようにしよう」ということを、災害準備のプロジェクトチームで確認しました。つまり、「名簿を、みんなが助かるきっかけにしよう」ということです。

「支援が必要」とお答えくださった16名から出た災害時の心配の中で、共通していたのは2点ありまし

た。一つ目は、エレベータが停止した場合に階段で避難できないことへの心配。これは、名簿に載っていないくても、高齢者、乳幼児、妊産婦、災害でけがをした人、災害前にけがをしていた人に共通する課題です。そこで、今日の防災訓練は、この対策を考えるために、企画しました。

もう一つは、「災害発生時に、家族が家にいない場合が心配」ということで、これも、どの家でも起こることですので、今年の後半に、班単位の安否確認を、いくつかのモデル地区から試してみようと思っています。関心のある人は、ぜひ、ご連絡いただきたいと思います。ここでの問題は、マンションには班がないことです。私もマンション住まいですが、管理組合とも相談しなければいけない課題です。

**【階段プロジェクト】**  
**大規模地震で、移動困難者(高齢者、障害者、地震による傷病者)を搬送する方法を知る**

**【前提条件】**

- ・在宅避難の準備をして、原則、エレベータ復旧まで下ろさない
  - デイサービスに行けないので、家族の介護負担が増える
  - 近所に住む家族も、エレベータが使えないと往復の負担が増える
  - ⇒ 想定される課題は「近所で何ができるか？」

**【階段を下ろす必要がある場合】**

家屋損壊が激しい場合・近所に火事があった場合・災害関連死につながるような健康状態の悪化があった場合 → どう降ろしたらいいか？

2022 © Yajiro Kitamura 8

図 14 移動困難者を階段で搬送する前提条件

大地震で、移動困難な人をどう運ぶかという今日の課題については、「階段プロジェクト」として、検討しています。「このプロジェクトだけ参加したい」という人が、参加しやすいように、細かくプロジェクト名を作っていますので、関心がある方は、ぜひ、ご連絡ください(図 14)。連絡先のメールアドレスは図7にあります。

まず、大原則として、「エレベータが動いている時のように、降りたり昇ったりはしないで、在宅避難をしていただく」。そうすると、「デイサービスに行けないので家族介護の負担が増えたり、近所の家族も、往復の負担が増える」という課題があるので、「近所で、何ができるか」は、考えていかなければいけません。

どうしても、すぐに降りなければいけないのは、家屋損壊が激しい場合と近所に火事があった場合です。消防署に通報しますが、災害時には、消防署が通常のようには来られないので、近所で運び出さないと命の危険がある場合の方法を知っておこうというのが問題意識です。

試した方法は5つです(図 15)。

- ① オレンジ色の、肩ひも付きの布担架(ベルカ)は、7 年ほど前に私がネット通販で購入した時は 4.5 万円でしたが、いまは 3 万円くらいで購入できます。
- ② 水色の簡易担架(NW ストレッチャー(ディスプレイ)、アズワン)は、この度、ネット通販で購入しました。3000 円程度でした。
- ③ 車いすは、お手持ちの物。あるいは、マンションや公共施設から借りる。
- ④ ダイニングの椅子。これも、その人の家にあるもの。

おんぶ紐(介護用おんぶ紐おんぶラック、N¥S)。おんぶ紐もネットで購入できます。2500 円から 25000 円



くらいまで価格に幅がありますが、ここでは、5000 円の物を買ってみました。昨年は、3300 円の物がヒットしたのですが、今年は、それは見つかりませんでした。どれがいいか、定評があるというものでもないのかもしれない。荒川区で有名になった「おんぶ隊」は、一人で背負うことができる利点があるそうです。8000 円弱です。また、ヘルメットとゴム軍手(背抜き手袋 天然ゴムコート、モントロウ)を、全員付けていただきました。

## 試行した方法



肩掛け付きの  
布担架:2人  
→6人  
(45,000円  
→28,000円:  
私物):30Kg  
以下の人なら  
女性一人で搬  
送できるらし  
い



布担架:6人(3,500円)  
ゴム軍手(100~400円)  
ヘルメット(町会)  
さらし370cm(私物)



車いす(私物、共有):上向  
きで4人で





椅子(私物):上向きで4  
人で、**交代の時に使用**



おんぶ紐(5000円:  
私物; 2500~  
25,000)

2022@Yayoi Kitamura

図 15 試行中の写真

一番右は、おんぶ紐の写真です。上は、別の機会に撮影したもので、乗っている男性がぴったり、しがみついています。下で、乗っている女性は上体を起こしています。遠慮があって、ぴったりしがみつけれなかったのだと思います。しがみつけないと、後ろに体重が残るので、とても、バランスがとりにくく、立ち上がる時、降ろすときに、負ぶった学生は、転びそうになって、手すりをしっかり握っていました。「手すりをもって踏ん張るにも、ゴム軍手は役立った」と負ぶった学生は話していました。動画では、その点にも、ご注目ください。

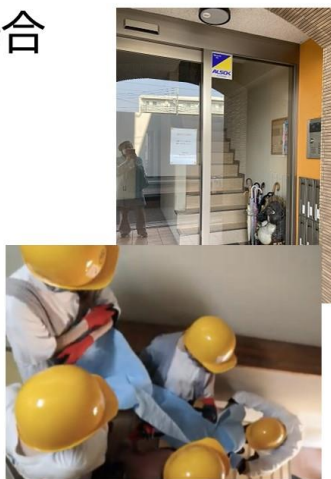
今回は、5 階建てマンションと高層マンションの 2 か所で試行をしました。5 階建てマンションの最上階に住む名簿登載者を、どう降ろそうかというのが、当初の課題でした(図 16)。階段幅は 85 センチで、車いす幅が 61 センチ。車いすに付属物がついていて実質 70 センチ。1 段の高さは 22 センチで、結構高いです。階段に手すりはありませんでした。

この階段では、車いすの横に人が入れません。担架を両横から持とうとしても、幅が入りません。写真は、担架だけで移動してみたところですが、人が乗るスペースは作れませんでした。担架を前後に運ぶ方法もあるのですが、階段が急で、怖くてできませんでした。練習すれば、できるかもしれません。

おんぶ紐が一番、可能性はあると思いましたが、手すりがないので、これも、怖くて、試みませんでした。おんぶ紐を使ったとしても、乗せるとき、降ろすときは、絶対に補助が要りますので、練習が必要です。

## 5階建てマンション最上階の場合

- 階段幅85cm(車いす幅61cm+8cm)
- 1段の高さ22cm
- 手すりなし
- 横から運ぶ方法は、人が入らない
- 前後に運ぶには傾斜が大きく、素人では怖い
- おんぶ紐のおんぶを練習する？  
(手すりなしでは怖かった、  
乗せるとき、降ろすときに補助が必要)
- 布担架だけ(人なし)で幅感覚を調べてみた



2022@Yayoi Kitamura

10

図 16 5 階建てマンションでの試行

## タワーマンションの場合

- 階段幅120cm、手すりまで含めて130cm  
(車いす幅61cm)
- 1段の高さ20~21cm
- 両側に手すり
- 布担架2種類、車いす、椅子、おんぶ紐を試行
- **ほかの通行者とはすれ違えない**
- 椅子は、折り畳みでなく、持つ場所があるタイプが必要
- おんぶ紐でも乗せるとき、降ろすときに補助が必要
- 前後に運ぶには傾斜が大きく、素人では怖い
- **ゴム軍手(100~400円)、さらし、ヘルメット**
- **降りた後の移動手段**
- **2チーム以上(交代要員)をアルバイトで募集**
- **余震の対応が不安**



2022@Yayoi Kitamura

11

図 17 高層マンションでの試行

高層マンションの階段幅は120cmありました(図17)。両側の手すりの外の壁から壁は130cmでした。これは、両側に人が入るのに十分な幅でした。両側に手すりもありましたので、おんぶの際も活用できました。ただ、おんぶ紐以外はほかの人とすれ違えないので、踊り場で、待ちあうことが必要になります。一斉に避難する場合には、最後になってしまいそうです。ここで、試した方法を、後程、動画でお見せします。

高層マンションでは、5つの方法全部を試すことができましたが、道具と人手が要ることがわかりました。椅子に乗せて運ぶのは、車いすよりも軽くて、見た目には一番よさそうだったのですが、持つ場所がしっかりしている椅子が必要でした。よくあるダイニングの椅子は上のようなタイプで、持つ場所がありませんでした。下のようなタイプで、脚も手になじむ形状だとベストです。

右下の写真に示したゴム軍手は、どの場合にも、とても有効でした。百円ショップにもありますし、コンビニでも400円以内で買えます。Mサイズを女性に、Lサイズを男性に使っていただきました。

また、5階程度でしたら、なんとか1チームでも運べると思いますが、それ以上の場合は、2チームは人員確保するか、途中で、降ろして、休憩した方がいいと思いました。

自分の車いすのままおろして、そのまま移動するのであれば、問題はありますが、歩行器をお使いの場合は、降りた後の移動手段である歩行器も下ろさなければなりません。地震の後で、道路状況が悪いと歩行器が使えないかもしれないので、車いすがあった方がいいかもしれません。

また、余震があった時に、搬送中だったら、どう、停止するかは、素人軍団では、どうしたらいいのか、よくわからなかったので、今日、消防署のプロに技を伝授いただきと思っています。  
今回は、東京福祉大学社会福祉学部社会福祉学科の佐藤惟先生に仲介いただき、学生さん7名と佐藤先生に、運搬役をしていただきました。男性3名、女性5名でした。



図 18 試さなかった方法

老人施設を対象にした避難についてのマニュアルもネットに出ているのですが、少ない人数で運ぶ方法は、どれも、怖くてできませんでした。右下の写真の方法は、よく介護教室でも習いますが、水平移動はよくても、これで階段を降りるのは怖いと感じました(図 18)。



2022@Yayoi Kitamura

13



## 図 19 階段昇降機

階段昇降機(上下の両方向)とか階段降下機(下るのみ)という機械も、世の中にはあります(図 19)。令和元年に東日本台風で浸水した武蔵小杉の高層マンションには階段降下機が 1 基あって、確認しただけでも 2 回は使われていました。この近隣では、ブリリア、エアライズタワー、パークタワーにはないことを確認しました。

明治通りの向こうのマンションには昇降機はありませんが、管理人が 24 時間常駐で、災害時に必要があれば非常電源で非常エレベータを動かすということでした。管理人が 24 時間常駐で災害時の対応もするというのは安心です。しかし、多くのマンションは、災害の業務は管理会社に委託していないので居住者による助け合い体制を作る必要があります。非常エレベータも大規模地震の後では、非常電源があっても動くとは限らないことにも注意が必要です。

2001 年 911 のアメリカのツインタワービルには、各階に 1 台ずつ、写真のような降下機があって、実際に使われたそうです。ただ、マンションの場合は、どこに置いて、誰が操作できるか、一度降ろしたら誰が上げるか、という問題がありますので、すぐに、購入依頼をしようという考えにはなりません。この機種ですと、写真で見る限りでは、横を、ほかの避難者が通行できるように見えます。



図 20 動画のタイトル画面

では、図 15～17 の様子を動画で 10 分ほど、ご覧いただきます(図 20)。

<https://youtu.be/tFltoyso1c> からご覧いただけます。

### 試行の感想

- 練習して、その場にあった方法・道具を準備すること、必要な人数を知ることが大事
- 各自ができること/できないことを知ることが大事(訓練した消防署員は布担架を6人で100m運べるというが・・・)
- 自分が運べなくても、安全に運ぶ方法を知り、指示することはできる
- 高層階から下ろすには複数チーム必要
- 狭い階段でも、おんぶや布担架を前後に支える練習の価値はありそうという人もいた(40～60歳代男性)
- 火事の場合に、高層階から地面まで下ろす必要があるのか？

**(煙や一酸化炭素中毒を避けるには、最低、どこまで移動したらいいか)**

2022©Yayoi Kitamura 15

図 21 試行の感想

こういう試行をやってみて、感じたところをまとめました(図 21)。

まず、練習が必要と実感しました。「今日、お見せした動画の方法でできますよ」というのではなく、運ぶ場所、運ばれる人、運ぶ人にあった方法と道具を準備して、必要な人数を知ることが大事だということをお伝えしたいと思います。

次に、各自ができること、身の丈を知ることが大事だと思います。私は、膝が痛いので、運ぶことはできません。でも、指示出しはできるかな、と思いました。ご本人やご家族には、どう運んだらいいかをわかっていて、素人をお願いするのであれば、必要な道具をそろえていただけるといいかな、と思います。

今日の防災訓練の参加者の多くは 60 歳以上なので、お願いしにくいですが、動画では、「大学生だったら、できるんじゃないか」と思って、お願いしてみました。それも、「アルバイト」と言わないと、私は気が弱くて、お願いできませんでした。大学生をお願いするのでも、「布担架を 6 人」なら、頼めましたが、4 人だと、ちょっと頼みにくかったです。消防隊員は、基本は 4 人で運び、毛布担架で 100m 運べると聞きました。避難所は 100m より遠いので、素人であれば、6 人が 2 チームはいた方がいいと思います。

最初の 5 階建てのマンションでは、階段の幅が狭くて試行できませんでしたが、練習すれば、おんぶや布担架で、運べるんじゃないかな、というお声も、40 歳から 60 歳代の男性からはいただきました。階段の幅がある高層マンションは、布担架で、人数がいればなんとかなりそうですが、人数をどう集めるか、という課題があります。また、火事の場合に、地面まで降ろす必要があるのか、どうか。ブリリアは、平時には、隣の家延焼するまでに 2 時間かかり、火元一戸が燃え尽きて鎮火されるのが普通、と聞いています。ただ、煙や一酸化炭素の影響を考えると、同じ階から離れて煙やガスが来ないところに行きたいとも思います。大規模地震の後で起こった火事の場合は、スプリンクラーが正常に稼働するかという問題もあるので、消火活動なしで自然鎮火するのも不安があります。ここは、消防署の方に、ご教示いただきたいと思います。

#### 4 消防署員による説明と実演

(消防署職員)階段で垂直移動した後では、水平移動が必要になります方法を6つ、ご紹介します。

##### ① 毛布を使って、一人で引きずる(図 22, 23)

これは、一番、簡単で力がいらしません。消防隊の基本は、進行方向を必ず確認します。背を向けて移動するということは、障害物が前にあるかもしれませんので、基本的には、進行方向を向いて、そのまま引っぱり張ります。



図 22 毛布を使って、一人で引きずる



図 23 腰をしっかり入れて、脇を締める様子

今、靴カバーをしているので、足に力が入らないので、なかなか大変なのですが、実際には、靴を履いて引っ張るので、どんどん引っ張れます。力がない方でも、挟んで、腰をしっかりいれて、脇を締めて引けば行けますので、これを覚えておいてください。腰を入れて、脇を締めるのは、どの運搬でも基本になります。

## ② 二人で抱えて運ぶ（図 24, 25）



図 24 椅子に座った人と肩を組み、膝裏で相手と手をつなぐ 図 25 椅子を引くところ

今度は、2人で抱えて、いすに座っている方を、水平に移動させる方法をお見せしたいと思います。1人、座っていただいて。まず、肩を組んで。足の下で逆の手を組みます。

1、2の3で持ち上げて、もう1人が、いすを引いてあげます。この(いすを引く)人、意外と重要です。運んでいる間に、この人は、ずっと前に行ってもらって、搬送経路をあけて、また、いすを、こう、入れ込んでやる。

## ③ 四人で布担架を使う（図 26,27）

布担架についても、お話したいと思います。まず、一番重要なのは、頭です。頭部側が一番重い、重要で大切、なおかつ顔色を確認でき、会話も容易になるため、指揮者が頭部側を担当することになります。



図 26 布担架を持ち上げる前



図 27 運搬中



次に、体力がある方 2 人で、側面側を引きます。足部側は、重さほとんどかかりません。片手で持ち上げられるので、足部側に一番力のない人を配置するか、もしくは進行方向を示すために、片手で持ち上げて、もう片手で物をどかしたりとか、手すりをつかんであげたりとかして、誘導できる人が先頭に立ちます。この状態で足部側に向かって進みます。

1、2 の 3。(持つ時は)必ず、脇を締めます。脇を締めて、体幹で支えて歩きます。はい、前へ進め。仮に、余震がきましたら、備えて、そのまま下りて置きます。

#### ④ 六人で布担架を使う (図 28,29)



図 28 配置



図 29 持ち上げたところ

6 人だったら、ここ(足の次)が、重たくなります。足部は、常に 1 人で大丈夫です。進行方向へ体を向けます。片手で持てるなら片手で持つと、開いた手は手すりを持てます。いきます。1、2 の 3。

足場の悪いところでは、手すりなんかつかめると安全です。片手をあけておければ、その分、安定して運ぶことができますので、片手をあけておくのも、1 つ基本になります。両手があくと、もっといいです。おんぶとか。下ろします。

#### ⑤ 狭いところで布担架を使う (図 30, 31)

狭い場所での搬送方法も、お見せしたいと思います。片側に、集まります。はい、持ちます 1、2 の 3。この状態で…はい、前へ進め。階段など、狭いところなんかは、こうやって搬送することも、かなりあります。普通の一般住宅、廊下が狭いところも多いです。はい、置ききます。1、2 の 3。はい、OK です。



図 30 片側に配置



図 31 持ち上げて運搬

この布担架の最大の特徴は、先ほど、お話したとおり、持ち手が大量についていますので、地形とか建物の状況に合わせて、運ぶことかできることです。建物の状況とか運びやすさと、あとは運ぶ人の人数によって、うまく使っていただけるといいです。慣れてくると、いろんなアイデアが浮かぶと思います。

#### ⑥ 毛布と竹竿を使った毛布担架(三人) (図 32, 33)



図 32 竹竿 2 本と毛布 1 枚で毛布担架を作る



図 33 真ん中を支えて、進行方向(足側)は方向転換

昭和のご家庭だと、結構、竹竿があるので、そういう時代に指導していた 1 つの方法で、毛布と竹竿で簡易的に担架を作る方法です。運び方に関しては、(他の担架とも)基本、同じですので、そのやり方を、見てください。基本的に、3 名で搬送します。持ち手が 4 つあるので、4 人に増員することも可能です。もう 1 人、方向変換する時に、真ん中についてもらいます。やります。

まず向かい合って(担架を持ち上げます)。進行方向は足側です。足側に向かって運びます。では、腰を入れて持ち上げます。真ん中の人は確保します。(進行方向の人は)この状態で、右回りで持ち手を持ち替えていきます。

足部側が短かったので、難しかったですが。持ち替えて、補助する人が指揮しますが、手を離して。2 人で、前を進む人が左足から、後ろの人は右足からで、足を反対にして進みます。はい、前へ進め。はい、OK です。





図 34 搬送



図 35 説明する消防署員

降ろす時は、真ん中の人補助について、「よし」という声で、こちらの人が、また右回りで支えて、これで下ろしていきます。以上のような方法で、担架が使えますので、この方法も覚えておいてください。実演については、以上になります。



図14 椅子型車2人介助移動

先ほど、いす型の担架を使っているスライドで、「消防隊は3名で使いますよ」と説明された写真がありました。車いすの代わりに、消防隊は、いす型担架を3名で使用して、階段の下に顔を向けて、傷病者を搬送します。左の図の椅子の後ろに、もう一人ついて、左右の高さを同じに保ちます。

まとめです。今あったように、いろんな道具に、使い勝手、長所とか短所は、それぞれありますので、それをしっかり使い込み、理解することで、それぞれの状況に合わせて、使い分けてもらうということに、引き出しを多く持つことが非常に大

切です。

簡単に、おんぶで下ろせるのであったら、それが一番だと思います。早く簡単に。もう一番大切なのは、早



く簡単に安全に下ろす。この時に、何が大切かということ、普段から考えていただくことがいいのかなと思います。

時間の余裕があって避難できる場合は(簡単に安全)でいいのですが、火事の場合は時間の余裕がないことがあります。例えばマンションの一室が火災になりました、同一階に住んでいます。避難しようとしたら、もう廊下に煙がただよっています。一刻の猶予もないような場合は、もう、なりふり構わず、とにかく避難階段に早くたどり着く、それが一番大切になってきますので、そのことを覚えておいていただければと思います。

廊下が煙で充満していたら、玄関ドアを閉めて、ベランダ側で待つほうが安全なケースというのは出てきます。そこが、マンション火災での難しいところです。避難の判断が非常に難しいのですけれども、煙があつて、もう進めない状態では、ベランダ側に避難した方が安全な場合があります。避難用タラップで下に降りるという方法もあります。

それぞれ、お住まいのマンションの、避難用の設備ですとか、あとは非常口。必ず2系統あるように作られているはずですので、パッと玄関を開けた時に、左か右、どっちかに、どっちからだったら逃げられるのかなと、見た時に、安全なほうに、すぐ、こっちに避難口があるなとたどり着けるように、せめてご自宅の非常口等は、常に確認しておくようにしてください。私からは以上になります。

(防災部長)ありがとうございました。スライドには、事前に試行動画を消防署で見えていただいた時にうかがったことを上げました(図36)。実演で、ご指摘いただきましたので、読み上げるのは割愛します。

高層マンションの平時の火事では、10分鎮火しなければ、1階までおりることを勧められますが、移動困難な人は、最低、どこまで降りることが必要なのは難しい問題です。「絶対にこうすれば安全」ということは言えないということだと思います。災害が起こる前に、何度も考えておかないと、とっさの判断はできないのだと思います。

### 消防署・消防団からの講評

- ・消防署員だったら、布担架をどう使うか
  - \*リーダー(通常は頭につく)、号令、全体管理
  - \*先導、椅子を引く人がいてもいい、前方を向いて歩く
  - \*腕を曲げて体に密着させ、体幹で重さを支える
  - \*交代時には床に布担架を下ろす(頭部は支えたまま)
- ・余震があったら、その場でしゃがむ。リーダーは、しゃがむように指示する
- ・消防署員は自己機材を使い、被搬送車の車いすなどは別に運ぶ
- ・大地震後の火災では、どこまで降りたらいいか？

2022©Yayoi Kitamura

16

図36 講評ポイント